

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「ひびき合い ともに よりよく生きる」

【知】自ら課題を発見し、考えを深めながらよりよく解決していく子を育てます。 【問題解決力、関心・意欲・態度】
 【徳】自分も身近な人も大切に、思いやりのある優しい心をもつ子を育てます。 【人権尊重、あいさつ、思いやり】
 【体】体を鍛え、自他の生命や体を大切にすることを育てます。 【生命尊重、自己の体力づくり】
 【公】自分と身近な人・もの・ことにかかわり、集団の一員として役に立とうとする子を育てます。 【社会参画、他者への貢献、自尊感情】
 【開】自分から様々な人とふれ合い、共に生きていこうとする子を育てます。 【コミュニケーション、共生、他者理解】

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

- ①【問題発見・解決能力】
- ②【コミュニケーション能力】

具体化した資質・能力

「人・もの・こと」との豊かなかかわりを通して問題を発見し、主体的に解決しようとする力
 自他を認め合い、進んで協働しようとする力

中期取組目標

- ◎学校教育目標「ひびき合い ともに よりよく生きる」の具現化
- (1) 日々の授業を通して、子どもたちの主体性を引き出し、自分で学習や生活をつくり高めていこうとする子どもたちを育てます。
 - (2) 子ども一人ひとりが安心して、自分らしさを発揮し、互いを認め合える温かい学校風土をつくります。
 - (3) 自身の健康に関心をもち、進んで運動したり、毎日の食事で睡眠を大切にしたりする力を育てます
 - (4) 学校運営協議会を基盤に、保護者・地域と連携しながら、信頼関係に基づいた開かれた学校づくりを進めます。
 - (5) 組織的な指導体制のもと、全職員が共通理解をもって児童の指導に当たります。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①「問題解決的な学習」を研究・推進し、子どもたちの問題発見能力や、学習計画力、解決方法の選択力・決定力を育てる。 ②「GIGAスクール構想」を推進し、ICTを活用した協働的な授業づくりを進め、成果を全体で共有する。
担当	評価委員会

学力向上に関わる本校の状況

①令和元年度学力学習状況調査の結果によると、学力・生活意識どちらについても藤が丘市の平均が、それを若干上回る数値となっていました。

②令和3年度全国学力調査「算数」の調査結果によると、概ね全国平均や県平均を上回る正答率が表れましたが、「国語」の調査と比べると全体的に正答率が低めでした。(図1)その中で、全国平均・県平均のどちらにも下回った問題のみを表にまとめ、「わけ」や「考え方」を問う「記述式」の設問に対し、「無回答」となる児童もいました。(図2)「国語」の調査結果では、「記述式」の正答率が、唯一全国平均・県平均のどちらにも下回りました。

そこで、公開授業研究会、実技研修、講演会の機会を設定し授業研究を進めました。各教科の単元・領域と、タブレットを用いた効果的な学びになるプログラミング教育の関係を明確にし、発達段階に応じた年間指導計画を立てました。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>

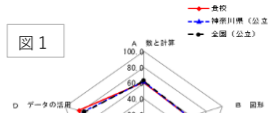


図2

問題番号	問題内容	記述式	正答率(%)	無回答率(%)	全国平均(%)	県平均(%)	
2 (1)	図表に表した内容をまとめる式と式の人を数く	○	51.5	52.4	2.1	2.1	1.6
2 (3)	二乗以上の乗数を組み合わせた平均値の計算の求め方を数く	○	45.4	46.1	1.2	3.3	4.6
3 (1)	自身の体の成長と体の健康、からだのつくりを数く	○	94.8	95.6	0.0	0.5	0.4
4 (2)	図表に4つのグラフを数く(自分の生活の一人ひとりの生活の様子を数く)	○	53.6	56.2	0.0	2.5	2.0
4 (3)	自分の生活の様子を数く(自分の生活の様子を数く)	○	44.3	48.4	18.0	13.5	13.3

今年度の目標

児童一人ひとりが解決の見通しをもち、難しさや曖昧さに耐えながら粘り強く学習を進めていくことを通じ、解決の方法の一つとして、児童が効果的にICT機器等を選択・活用できるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ・問題解決学習を主眼に置いた授業改善を全校で推進し、児童が自分でめあてを決めて学びを進める機会を増やし、困難な課題に対しても粘り強く問題状況を解決しようとする力を育みます。
- ・協働的な学びを推進することで、相手意識をもって自分の考えを表現する機会を増やし、児童一人ひとりの、自分の内にある問いや思考を言葉や文字にして顕在化させる力を育みます。
- ・ICTの効果的な活用場面を実践例として蓄積することで、本校のカリキュラムを日々改善し、本校児童の資質能力の確かな育成につなげていきます。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①ペア学年、児童会、学級活動等を通し、「互いのよさを認め合える仲間づくり」を支援し、協働しようとする態度を育てる。 ②道徳科と各教科領域の関連を強め、子ども一人ひとりが「自分ごと」と感じ、価値の自覚がもてる道徳科の実践を行う。
担当	人権・子ども支援委員会

豊かな心に関わる本校の状況

- ①コロナ禍により交流活動に制限がありましたが、その中であっても、子どもたちは可能な範囲で活動を工夫しながら友達や異学年との関係を広げたり、深めたりしていました。
- ②YPアセスメントの実施により、クラスの実態を把握しながら、丁寧な支援を心がけることができました。回答から、自分の気持ちを素直に伝えることができない児童が多くいることが分かり、これまで以上に丁寧な指導が必要であると分かりました。
- ③本校では、登下校の際や廊下ですれ違う際に、大人や子ども同士で進んで挨拶ができる状況が見られます。感染症の影響により異学年との交流や、全校での集会活動が難しい中で、日々の挨拶は互いを認め合える一番身近で重要な習慣であると考えます。小中一貫教育推進ブロックの具体的取組「笑顔で挨拶」とも関連付け、今後も感染症の状況を見つつ、挨拶が増える取り組みを行っていきます。

今年度の目標

様々な活動の中で、互いに気持ちよく、落ち着いた生活ができるようにし、制限のかかる中でも工夫して、様々な立場の人とふれ合い、豊かに関わろうとする態度を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ・児童一人ひとりの自尊感情を育てていくために、日頃の学習活動全般において、人権尊重の精神を基盤にした「学習活動づくり」や、人権が尊重される「人間関係づくり」などを推進していきます。
- ・あいさつを大切にされた指導を推進していることを家庭や地域に公開し、地域全体で、あいさつを進んで行えるようなかかわり合いをもてるようにしていきます。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①「ロング昼休み」を活用し、校庭や体育館で遊ぶ時間を確保することで、子どもの運動習慣の増進を図る。 ②給食指導をきっかけに、6年間の系統的な食育指導を行い、健康と食事の関係についての関心を育てる。
担当	健康安全委員会

健やかな体に関わる本校の状況

- ①ロング昼休みは、多くの児童が外に出て活発に遊んでいましたが、コロナ禍による行動制限や、タブレット端末が配布されたことなどにより、室内遊びをして過ごす児童が増えました。体育科でも、2年間に及ぶコロナ禍の影響により、学習時間が不十分な運動領域もありました。
- ②コロナ禍により、食育の推進は「ばくばくだより」を中心にしたものになりました。子どもたちは、感染予防に留意しながら、ルールを守って、給食を食べています。
- ③児童保健委員会では、感染症対策を講じていった中で、よかったことについて前向きに考えていました。ハンカチを持ち歩く習慣がより身についたことや、手洗いやうがいする機会が増えたことで、風邪をひくことが少なくなったことなどに気付いていました。
- ④けがをしたときは患部を水道で洗うことや、腹痛のときは、まずトイレを済ませること等、保健室を利用する前に自分でできる対処法を習慣として身に付いていない児童が多く見られました。

今年度の目標

学校保健委員会や給食指導の中で、自分の日常を振り返りながら、自分の心身の健康に関心をもち

目標を実現するための具体的行動プラン

- ・中休みやロング昼休みを活用し、体力向上に向けて積極的に運動に取り組むように促します。友達と仲良く、校庭で身体を動かして遊ぶことの楽しさを伝えるとともに、元気に運動をすることで、健やかな体の成長につながっていくことを感じられるようにしていきます。
- ・「ばくばくだより」や、掲示物等による給食指導の中で、給食に含まれる食物が、どれだけ体の成長に及ぼす効果があるのかということに、興味を持ってもらい、栄養バランスのよい食生活を心がけられるようにします。
- ・児童一人ひとりが自身の健康や安全について今よりも関心をもち、万が一けがや病気になってしまったときにも適切な対処が自分の力でできるよう、養護教諭と担任が連携しながら指導していきます。